

# 自己点検・評価書

## 研 究

平成20年6月

奈良先端科学技術大学院大学  
情報科学研究科



## 目 次

情報科学研究科の研究目的と特徴	2
分析項目ごとの水準の判断	3
分析項目 研究活動の状況	3
分析項目 研究成果の状況	9
質の向上度の判断	11

### < 別添資料 >

学部・研究科等を代表する優れた研究業績リスト 省略

## 情報科学研究科の研究目的と特徴

### 1 研究科の研究目的と特徴

情報科学研究科は、情報科学およびその関連領域における先端科学技術に係わる領域を対象とし、新規性と独創性に重点を置いた最先端研究の拠点を形成し、情報科学に関する知識の蓄積と創造に貢献するとともに、新産業分野の創成と開拓に貢献することを目的とする。その実現のために、下記のような研究目標を掲げている。

- (1) 情報科学基礎理論・計算機科学・マルチメディア科学・情報ネットワーク・システム科学・情報生命科学などの分野で知識の蓄積と創造に貢献する。
- (2) 最先端の問題の探求と解明のための萌芽的分野を育成し、他分野の革新的発展にも寄与する融合領域に関する研究を重点的に展開する。
- (3) 社会の要請に応える高度な情報科学の専門家の育成、産業界との連携研究の促進や技術移転、国際的な連携研究の促進などにより、国や地域社会の発展に寄与する。
- (4) 他分野の革新的発展にも寄与する融合領域や新領域への人材投入のため、常に研究組織の活性化と拡充を推進する。
- (5) 研究内容の説明責任を果たすとともに、研究活動の質を改善するために、自己改革が常に機能する研究評価システムを構築する。

このような研究目標の推進のため、下記の推進体制を取っている。

- (1) 基幹研究の実施体制  
基幹講座(情報処理学専攻(9)・情報システム学専攻(10)・情報生命科学専攻(8)の基幹講座、客員講座(3))で教授を研究リーダーとして研究を実施する。
- (2) 講座の枠にとらわれない独創的研究の推進体制  
後期課程学生や若手研究者に、各種研究プロジェクトに参画する機会を積極的に提供したり、主体的に研究プロジェクトを提案する場を設けて、優れた提案には研究科から研究費を提供する提案公募型若手支援研究補助制度を中心に整備する。
- (3) 研究成果の公開促進体制  
産官学連携推進本部と協力して産官学研究プロジェクトの推進・知的財産権の形成・研究成果のベンチャービジネスへの技術移転支援制度などにより促進する。
- (4) 社会との連携や国際交流活動の促進体制  
学生を含めた若手研究者の海外派遣に対する成果発表や国際交流の支援、国際会議開催支援など研究成果の公開活動を支援する研究交流支援制度や海外諸大学との学術交流協定締結を中心に整備する。

さらに、研究成果の社会への貢献のために、下記のような促進策に取り組んでいる。

- (1) 研究成果のアーカイブ化  
研究成果を電子化しその蓄積と公開を行う。
- (2) 産学連携研究プロジェクトの活性化  
社会的要請の強い課題に積極的に取り組み、産学連携による研究を推進する。
- (3) 社会サービスの推進  
教員による国家や地域の技術政策への提言活動や交流活動を奨励する。

### 2 想定する関係者とその期待

- (1) 修了者を受け入れる企業、大学、研究機関など： 高度な専門知識と倫理意識を有し、国際性と指導性を兼ね備えた情報科学の専門家の育成。
- (2) 国内外の産業界、学界、公的組織など： 高い研究水準の維持と社会への還元、新しい研究分野の開拓、研究ネットワークの構築、共同研究等の機会を提供すること。

## 分析項目ごとの水準の判断

分析項目 研究活動の状況

### (1) 観点ごとの分析

観点 研究活動の実施状況
--------------

(観点に係る状況)

情報科学研究科では、情報科学およびその関連領域における先端科学技術に関わる領域を対象として、知識の蓄積と創造に貢献するとともに、新産業分野の創成と開拓に貢献する研究活動を実施している。

研究の実施状況および、研究資金の獲得状況については、添付の資料・データに詳細が記されている。平成16年度より平成19年度のデータを集計すると、下記の通りである。

#### 1) 研究の実施状況

- 1-1) 学術論文発表状況：レフェリー付き学術論文誌等掲載論文数：682件（うち、査読付き国際誌 359件）(資料 I-1)
- 1-2) 学会発表状況：国際会議発表論文数：1184件（資料 I-1)
- 1-3) 学術賞等受賞数：133件（資料 I-2)
- 1-4) 知的財産権：特許出願数：180件（うち海外出願 72件）(資料 I-3)
- 1-5) 共同研究、受託研究数：417件（資料 I-4)
- 1-6) マスメディアに取り上げられた件数：202件（TV63件、新聞139件）(資料 I-5)
- 1-7) 教員の輩出数：転出教員23名、学内昇任教員7名、学外から登用16名（資料 I-6)

#### 2) 研究資金の獲得状況

科学研究費；共同研究・受託研究等；寄付金受入状況（資料 I-4)

なお、平成19年11月開催の第71回総合科学技術会議資料「国立大学等の科学技術関係活動に関する調査結果」においても、本学および情報科学研究科の研究活動は、下記のように非常に高い評価を得ている（資料 I-7）。

- ・外部資金比率：大学全体で17.8% 第5位
- ・教員一人当りの科学研究費補助金：大学全体では4,260千円 第2位（情報科学研究科単独では2,783千円）
- ・教員一人当りの受託研究費および共同研究費：大学全体では6,397千円 第3位（情報科学研究科単独では5,633千円）
  - 受託研究：大学全体では5,253千円 第3位（情報科学研究科単独では4,202千円）
  - 共同研究：大学全体では1,144千円 第4位（情報科学研究科単独では1,431千円）
- ・教員一人当りの特許出願件数：大学全体では0.61件 第1位（情報科学研究科単独では0.59件）

### (2) 分析項目の水準及びその判断理由

(水準)

期待される水準を大きく上回る

(判断理由)

平成16年2月16日の日本経済新聞発表の「工学系学部・研究科の研究力総合調査結果」

## 奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科 分析項目

(資料 1-8)において、下記のように研究力は非常に高い評価を得ており、従来から研究活動に対する評価が高かった。

- ・研究力：第2位(研究企画力：第1位、成果発信力：第10位)
- ・改革意欲度：第1位

分析に記述したように、研究活動の内容、実施状況および成果の観点から、それらが研究科の目的ならびに「中期目標・計画」に合致した状況で進められており、全体として、高い成果を実現、維持している。さらに、共同研究および受託研究数は年々増加の傾向をたどっており、産業界から見た評価も非常に高いレベルを保っており、期待される水準を大きく上回ると判断できる。

資料 1-1 学術論文等発表状況

		16年度	17年度	18年度	19年度	4年間	年平均
学術論文	件数	153	200	167	162	682	171
うち査読付き国際誌	件数	69	106	89	95	359	90
国際会議論文 (査読付きプロシーディングス)	件数	268	324	309	283	1,184	296
国際学会発表	件数	281	334	317	295	1,227	307

資料 1-2 学術賞等受賞状況

		16年度	17年度	18年度	19年度	4年間	年平均
受賞	件数	15	31	36	51	133	33.25
うち国際賞	件数	4	6	6	8	24	6.00

資料 1-3 特許出願等状況

単位(千円)

		16年度	17年度	18年度	19年度	4年間	年平均
発明届出件数	件数	33	27	35	30	125	31
出願件数	国内	28	28	23	29	108	27
	海外	0	24	29	19	72	18
特許取得数	国内	0	0	2	6	8	2
	海外	0	1	0	1	2	1
特許権等収入	件数	5	7	6	12	30	8
	金額	5,300	5,040	7,185	10,419	27,944	6,986
うち 実施許諾	件数	5	7	5	10	27	7
	金額	5,300	5,040	6,985	9,474	26,799	6,700
資料提供	件数	0	0	0	0		
	金額						
譲渡	件数	0	0	1	2	3	1
	金額			200	945	1,145	286

資料 1-4 外部資金受入状況

単位(千円)

		16年度	17年度	18年度	19年度	4年間	年平均
科学研究費補助金	件数	66	68	76	69	279	70
	金額	335,120	205,200	244,900	239,300	1,024,520	256,130
共同研究	件数	62	67	72	68	269	67
	金額	88,814	119,436	140,088	129,646	477,984	119,496
受託研究	件数	35	33	38	42	148	37
	金額	298,243	279,054	372,103	521,775	1,471,175	367,794
寄附金	件数	36	37	41	36	150	38
	金額	33,450	35,153	33,968	35,254	137,825	34,456
その他の競争的資金	件数	2	4	3	3	12	3
	金額	222,587	288,215	153,875	148,533	813,210	203,303

資料 1-5 マスメディア報道数

		16年度	17年度	18年度	19年度	4年間	年平均
マスメディア報道数	件数	20	118	40	24	202	50.5
	うちTV	1	44	12	6	63	15.75
	うち新聞	19	74	28	18	139	34.75
記者発表	件数	0	1	1	0	2	0.5
資料提供	件数	0	5	1	2	8	2

資料 1-6 教員の輩出および登用数

			12-15年度	16-19年度
学外へ 輩出	教授として	人数	7	7
		(うち昇任) 人数	6	5
	准(助)教授として	人数	8	10
		(うち昇任) 人数	6	9
学内で 昇任	講師として	人数	6	6
		(うち昇任) 人数	6	6
学外から 登用	教授として昇任	人数	4	3
	准(助)教授として昇任	人数	4	4
学外から 登用	教授として	人数	0	2
		(うち昇任) 人数	0	2
	准(助)教授として	人数	11	3
		(うち昇任) 人数	9	3
	助教(助手)として	人数	22	11

資料 I-7 国立大学等の科学技術関係活動に関する調査結果(第71回総合科学技術会議資料) 本学関係部分抜粋

**研究費**

**研究経費【教員一人当たり】** **第2位** **6,765千円/人** (第1位 7,422千円/人)

TOP 5 [千円] 東北大:6,793 NAIST 大阪大:6,544 東京大:6,353 東工大:5,359

**外部資金**

**科学研究費補助金採択件数【教員一人当たり】** **第1位** **0.87件/人**

TOP 5 [件] NAIST 京都大:0.80 東京大:0.72 東北大:0.71 大阪大:0.70

**科学研究費補助金配分額【教員一人当たり】** **第3位** **4,260千円/人** (第2位 4,352千円/人)

TOP 5 [千円] 東京大:5,043 京都大:4,432 NAIST 東工大:3,918 東北大:3,796

**共同・受託研究件数【教員一人当たり】** **第5位** **0.78件/人**

TOP 5 [千円] 帯畜大:1.76 北先大:0.96 東農大:0.90 豊技大:0.82 NAIST

**共同・受託研究受入額【教員一人当たり】** **第3位** **6,397千円/人** (第1位 6,923千円/人)

TOP 5 [千円] 北先大:7,115 東京大:6,689 NAIST 東工大:5,266 京都大:5,089

**外部資金比率** **第5位** **17.8%** (第1位 19.0%)

TOP 5 [%] 豊技大:19.3 東工大:18.8 東京大:18.7 東農大:18.4 NAIST

**人材**

**若手教員(37歳以下)割合** **第1位** **45.7%**

TOP 5 [%] NAIST 北先大:39.0 東京大:30.5 自然研:30.2 東工大:29.6

**研究成果**

**実施料(ライセンス)収入【教員一人当たり】** **第1位** **92.97千円/人**

TOP 5 [千円] NAIST 名古大:87.86 東京大:40.43 九工大:29.01 東工大:23.86

**実施料(ライセンス)収入** **第5位** **20,268千円** (第16位 5,070千円)

TOP 5 [千円] 名古大:163,852 東京大:160,108 東工大:28,324 金沢大:21,444 NAIST

**特許出願件数【教員一人当たり】** **第1位** **0.61件/人**

TOP 5 [件] NAIST 長技大:0.52 九工大:0.44 豊技大:0.39 名工大:0.38

**発明届出件数【教員一人当たり】** **第4位** **0.39件/人**

TOP 5 [件] 長技大:0.47 名工大:0.42 豊技大:0.41 NAIST 東農大:0.37

**論文発表数【教員一人当たり】** **第5位** **1.52件/人**

TOP 5 [件] 東工大:1.84 京都大:1.59 大阪大:1.58 東京大:1.55 NAIST

( )内：昨年度同様資料における本学の科学技術関係活動の状況

資料 1-8 「工学系学部・研究科の研究力総合調査結果」(日本経済新聞平成 16 年 2 月 16 日)

この部分は、著作権の関係で掲載できません。

分析項目 研究成果の状況

(1) 観点ごとの分析

観点 研究成果の状況(大学共同利用機関、大学の全国共同利用機能を有する附置研究所及び研究施設においては、共同利用・共同研究の成果の状況を含めること。)

(観点に係る状況)

研究業績リストに示すように、情報科学の幅広い分野で、優れた研究業績を上げている。研究科の研究目的ならびに中期目標・計画などに照らし合わせて研究業績を選定した。(別添資料 1表)。

- 1) 学術面においては、学術論文および著名な国際会議における受賞に結びついているか、発表した学会誌のインパクトファクターや引用数
- 2) 社会・経済・文化面においては、研究成果の実用性が高く、社会貢献が期待されるか、啓蒙書やマスメディア報道などを通じた社会への啓蒙度、共同研究の進展度などの観点から精査した。

学術的に卓越した水準にある研究成果(11件)

(1) ソフトウェアモジュールの欠陥の判定モデル

Yasutaka Kamei et al.: ESEM2007

(2) 非可聴つぶやきの発見

中島淑貴、他：電子情報通信学会論文誌，2004

(3) 日本語の省略語の処理に関するモデル

Ryu Iida et al.: Proc. of the 21st Int. Conf. on Computational Linguistics and 44th Annual Meeting of ACL, 2006.

(4) 参照関係から論文の関連性や重要性を判断する手法

伊藤敬彦，新保仁，工藤拓，松本裕治，人工知能学会論文誌，2004.

(5) ブラインド音源分離手法 SIMO-ICA の発見とその応用

Hiroshi Saruwatari, et al.: Proc. of Int. Conf. on Intelligent Robots and Systems (IROS2005), 2005.

(6) 複数のカラー画像から物体の表面反射特性を推定する手法

T. Machida, N. Yokoya, and H. Takemura: Color Research and Application, 2006.

(7) 脳が環境の曖昧性を如何に解消しているのかを解明

Yoshida, W. and Ishii, S.: Neuron, 2006.

(8) メタゲノム解析技術とデータベース開発

Hirai MY, et al.: Proc Natl Acad Sci USA, 2004.

(9) メタゲノムデータの情報解析技術

Kurokawa K, et al.: DNA Res, 2007.

(10) 神経芽細胞腫の予後予測を行う手法

Ohira, M., et al.: Cancer Cell, 2005.

(11) 独立成分分析によるシステム同定法の提案

新田益大，杉本謙二：計測自動制御学会論文集、2006.

社会・経済的な意義を有する研究成果(3件)

(1) 移動体によるデジタルテレビ放送の受信品質改善

Young-Cheol Yu, et al.: IEICE Transactions on Communications, 2007.

- (2) リアルタイム顔情報計測の開発と知的インタフェースへの応用  
松本吉央，他：情報処理学会論文誌、2006.
- (3) タンパク質キナーゼの三次元構造の解析  
Yamaguchi, H., et al.: Structure, 2006.

## (2) 分析項目の水準及びその判断理由

### (水準)

期待される水準を大きく上回る

### (判断理由)

以上のデータから、研究活動の内容、実施状況および成果の観点より、研究科の目的ならびに「中期目標・計画」に合致した状況で進められており、研究成果については、非常に高い成果を実現していると判断される。

平成 16 - 19 年度の論文発表件数、学術賞受賞件数を見て明らかのように、研究業績に関しては非常に高い水準を維持している。

研究業績リスト内では、学術面では当該分野において卓越した水準にあるものが 11 件、優秀な水準にあるものが 25 件である。

受賞も国際会議での最優秀論文賞のように国際的に高く評価されているものが多い。

社会、経済、文化面では、共同研究件数、特許出願件数に明らかのように、企業も研究水準の高さを評価しており、社会の要請に答えた研究内容が多い。マスメディアに取り上げられている件数(6頁 資料 1-5)が、平成 16 - 19 年度で 202 件であることから、社会的に、文化的にも高く評価されている研究成果が数多く出ている。さらに、経済、文化面にも大きな影響を与えている研究が継続的に行われている。

別添資料 「学部・研究科等を代表する優れた研究業績リスト」(I 表)  
「研究業績説明書」(II 表)

## 質の向上度の判断

## 事例 1 「ユビキタス統合メディアコンピューティング研究」(分析項目 )

(質の向上があったと判断する取組)

多くは 21 世紀 COE プログラムの実施を通して得られたものである。特に、21 世紀 COE プログラムの実施(平成 14・18 年度)を契機として、論文発表数が増加し、研究活動のグローバル展開を加速している。事業推進担当者が係わる平成 16・18 年度の研究実績は、以下の通りである。

- ・レフェリー付き学術論文誌等掲載論文数：808(一人当たりの論文数：33.7)
- ・国際会議発表論文数：592(一人当たりの発表数：24.7)
- ・特許出願数：62(一人当たりの出願数：2.58)

研究成果に関しても、21 世紀 COE プログラム委員会より「音声メディアインタフェースやモバイルネットワークテレプレゼンスなど、個別メディア処理に関して、世界的な成果を上げており、目的は概ね達成されたと評価できる。」との事後評価をもらっている。

## 事例 2 「新たな研究領域の開拓」(分析項目 1)

(質の向上があったと判断する取組)

21 世紀 COE プログラムに引き続き、グローバル COE プログラムにおいても、情報生命科学専攻が参画した「フロンティア生命科学グローバルプログラム」(平成 19 年 6 月採択)が採択された。また、新たな融合領域の開拓をめざして研究活動が開始されている。

(1) ネットワークとメディアを利用した新たな融合領域に向けて、「ソフトウェア設計学講座」、「インタラクティブメディア設計学講座」を設置するとともに、平成 19 年度末には「環境知能学講座」の新設を決定した。

(2) 情報技術と生命科学技術の融合に関しては学内で重点的に取り組む体制として「融合領域推進プロジェクト」が発足し、「革新生体計測融合クラスター」、「形づくりのシステム生物学」、「外界と相互作用するヒトのからだ」などの研究に取り組んでいる。

## 事例 3 「若手教員および技術者の養成」(分析項目 1)

(質の向上があったと判断する取組)

以下の 2 点に示すように、情報科学分野の若手教員、博士後期課程学生の人材育成に関して卓越した成果を上げている。

## 1) 若手教員の高い流動性

若手教員の高い流動性を有しており、研究指導者の育成に関して顕著な成果を上げている。平成 18 年度の情報科学研究科の若手教員割合は 52.7%、全学で 45.7%であり、これは総合科学技術会議によると、全国で最も若い。また、個々の人材が活躍する環境を形成し、他大学の大学院重点化に伴う教員組織の拡充にも貢献している。他大学への昇任人事が多く、助教授・准教授からの昇任 18 名のうち 13 名が他大学へ転出している。

## 2) 人材養成プログラムの取組み

文部科学省「先導的 IT スペシャリスト育成推進プログラム」において平成 18 年度よりソフトウェア技術者の育成プログラム「IT Spiral」、平成 19 年度より情報セキュリティ管理者育成プログラム「IT Keys」を実施している。また、経済産業省「産学連携製造中核人材育成事業」において平成 19 年度より次世代ロボットの人材育成事業を実施している。

事例 4 「研究成果のアーカイブ化」(分析項目 )

(質の向上があったと判断する取組)

本学電子図書館と共同し、学位論文やテクニカルレポートなどの研究成果を電子化し、その蓄積と公開を行っている。平成 16 年度以降は授業アーカイブにも取り組んでおり、高品質アーカイブ 30 件を含み 4 年間で 144 件の授業アーカイブの構築ができています。

これらには学内のみならず学外からも利用可能なアーカイブも含まれており、研究成果の社会への普及に貢献している(資料 III-1)。

事例 5 「産学研究プロジェクトの活性化と社会サービスの推進」(分析項目 )

(質の向上があったと判断する取組)

1) 次世代インターネット技術に関する研究

本研究科では、我が国におけるインターネット研究を先導する WIDE プロジェクトに発足時より継続的に参画し、企業・他大学の研究者や技術者と連携を図っており、本学からインターネット技術開発だけでなくネットワーク分野で活躍する優秀な技術者、研究者、教育者といった人材を数多く輩出している。

近年は「インターネット自動車」、「緊急医療活動支援システム」など、産官学が連携してインターネットを用いた実証的研究プロジェクトに積極的に取り組んでいる。さらに、山口英教授は内閣府セキュリティ補佐官として国家の技術政策の提言活動や交流活動にも貢献している。

2) 生活支援情報技術に関する研究

ロボットやメディア技術のような我々の日常生活を支援する情報技術に関して積極的に取り組んでいる。

館内案内ロボットや駅案内ロボットを公共施設に実験的に設置し実証実験を行うことにより、生活支援ロボットの研究開発とともに地域への科学技術の啓蒙活動を行ってきた。また、非可聴つぶやき認識技術、画像処理による安心見守り技術、バーチャル平城京などのメディア技術の先端的研究を推進し、政府競争的研究資金による産学研究プロジェクトに積極的に取り組んでいる。

資料 III-1 電子図書館電子化資料および授業アーカイブのホームページ  
 ( 出典 : <http://library.naist.jp/library/digital/digitized.html> )

奈良先端科学技術大学院大学 電子図書館 電子化資料								
Home	電子化雑誌	電子化図書	学位論文	授業アーカイブ	科研費報告書	テクニカルレポート	講演ビデオ	講義レジュメ

● 電子化資料 / DIGITIZATION ●

- [電子化雑誌一覧 / List of Digitized Journals at NAIST](#)

図書館で電子化している雑誌の一覧です。多くの雑誌は、当大学構成員のみの利用に限られます。  
 It's a list of the journals digitized in our library. Our staff and students can touch the full-text data after user identification.
- [電子化図書一覧 / List of Digitized Books at NAIST](#)

図書館で電子化している図書の一覧です。多くの雑誌は、当大学構成員のみの利用に限られます。  
 It's a list of the books digitized in our library. Our staff and students can touch the full-text data after user identification.
- [学位論文一覧 / List of thesis at NAIST](#)

図書館で電子化または所蔵している学位論文の一覧です。  
 It's a list of the master/doctor papers in our library.
- [授業アーカイブ / Lecture archive at NAIST](#)

図書館で電子化している授業アーカイブのページです。  
 It's a page of the lecture archive digitized in our library.
- [科研費報告書 / Grant-in-Aid for Scientific Research paper](#)

図書館で電子化している科学研究費補助金報告書のページです。  
 It's a page of Grant-in-Aid for Scientific Research papers digitized in our library.
- [テクニカルレポート / Information Science Technical Report](#)

図書館で提供している情報科学研究科のテクニカルレポートのページです。  
 It's a page of Information Science Technical Reports digitized in our library.
- [講演・講座ビデオ一覧 / Lecture Video at NAIST](#)

図書館で電子化している講演・講座ビデオの一覧です。  
 It's a list of lectures video digitized in our library.
- [講義・講演レジュメ / Resume](#)

図書館で電子化しているNAISTで行われた講義・講演レジュメの一覧です。  
 It's a list of NAIST's resume digitized in our library.

資料 III-1 ( 続き )

( 出典 : [http://library.naist.jp/library/archive\\_is/](http://library.naist.jp/library/archive_is/) )

**奈良先端科学技術大学院大学 電子図書館 授業アーカイブ**

Home
電子化雑誌
電子化図書
学位論文
授業アーカイブ
科研費報告書
テクニカルレポート
講演ビデオ
講義レジュメ

index
平成20年度
平成19年度
平成18年度
平成17年度
平成16年度
サンプル
電子シラバス

- このページから、情報科学研究科の授業アーカイブへアクセスできます。上記のタブをクリックして年度毎の時間割表からアクセスしてください。
- 2007年度までの授業の視聴には曼陀羅アカウントが必要です。  
2008年度から、一部一般公開されている授業があります。  
[サンプルコンテンツ](#)は一般公開しておりますので、ご覧下さい。
- 講義名、担当教員名から検索される場合には、[NAIST蔵書検索](#)をご利用ください。検索対象は「ビデオ」にチェックを入れてください。  
下記の検索ボックスからでも講義名、担当教員名などから授業アーカイブの検索が可能です。

- 「検索結果詳細」の「所蔵」の   アイコンをクリックすると映像をみることができます。  
  アイコンにfreeと表記されたものは、一般公開されています。学内外のどなたでも見ることができます。  
  アイコンに鍵のマークがついたものは、学内のみ公開されています。曼陀羅アカウントのログインが必要です。  
  アイコンにHQと表記されたものは、高品質アーカイブです。
- 授業アーカイブは年度によって録画・編集方法・再生方法が異なります。

	高品質アーカイブ  (ハイビジョン:H.264)	自動アーカイブ	高品質アーカイブ 	半自動アーカイブ
	Real Player 		Windows Media Player 	
平成16年度(2004.4-2005.3)				
平成17年度(2005.4-2006.3)				
平成18年度(2006.4-2007.3)				
平成19年度(2007.4-2008.3)				
平成20年度(2008.4-)	 	 		